

2020年12月15日

株式会社三菱UFJ銀行

マレーシア味の素社でイスラム金融方式の「サステナビリティ・リンク・ファイナンス」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{みけ かねつぐ}三毛 兼承、以下 当行）は連結子会社の MUFG バンク（マレーシア）を通じて、味の素株式会社（代表取締役社長 西井孝明、以下 味の素社）の連結子会社であるマレーシア味の素社（AJINOMOTO (MALAYSIA) BERHAD、以下 AMB 社）と、当行初アレンジとなるイスラム金融方式のサステナビリティ・リンク・ファイナンス（以下 本契約）を、本日締結しました。

MUFG バンク（マレーシア）は、AMB 社の環境および社会の課題解決に向けた持続可能な事業活動を支援するために、「サステナビリティ・リンク・ローン原則^[1]」に準じた本契約を締結しています。本契約は、AMB 社の事業活動を通じて排出される GHG（温室効果ガス）による削減目標をサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲットとして設定し、毎年度の達成状況に応じて、優遇条件が適用されます。本削減目標は、味の素社が 2020 年 4 月に認定を受けた国際的な共同団体である SBT（Science Based Target）の基準「1.5°C 目標」^[2]に基づく意欲的な目標となっております。

また本契約は、ハラール認証を取得しムスリム^[3]消費者を意識したハラール準拠製品を開発・生産する新工場向けであり、イスラム金融方式によるファイナンスとなっております。ムスリム人口の割合が大きいマレーシアでは、イスラムの規範に則った金融手法であるイスラム金融が浸透しておりますが、当行は MUFG バンク（マレーシア）に設置するイスラム法学者により構成されるシャリア委員会の審査を経ることで、イスラム金融方式によるファイナンスを提供できます。なお、当行は、MUFG バンク（マレーシア）の現地ライセンスに基づき、マレーシアリングgit 建てイスラム金融サービスを提供できる唯一の邦銀です。

当行は、引き続き、国内外でのノウハウを活かしながら、長期的な視点でお客さまや社会と末永い関係を築き、共に持続的な成長を実現してまいります。

【本契約の概要】

契約締結日	2020年12月15日
貸出人	MUFG バンク（マレーシア）
金額	100 百万マレーシアリングgit（25 億円相当）
期間	5 年
資金使途	設備資金

[1] ローン市場協会（LMA）等が定義する「サステナビリティ・リンク・ローン原則」（英文）は以下をご参照。

https://www.lma.eu.com/application/files/5115/8866/8901/Sustainability_Linked_Loan_Principles_V032.pdf

[2] 科学的根拠に基づいた温室効果ガス削減目標（Science Based Target, SBT）。パリ協定（世界の気温上昇を産業革命前より 2°C を十分に下回る水準に抑え、もしくは 1.5°C 未満に抑えることを目指すもの）が求める水準と整合した、5 年～15 年先を目標年として企業が設定する温室効果ガス排出削減目標。

[3] ムスリムとは、イスラム教を信仰している人々のこと。2020 年現在世界人口の 25% に当たる 19 億人がムスリムであり、イスラム圏の人口増加により 2050 年にはその割合は 30% に拡大すると予測されている。

以上